

栄養教諭と連携して家庭科の学習をしました

5年 家庭科「食べて元気に」

5年生の児童は、学習や行事に前向きに意欲をもって取り組める児童が多く、春の時点で規則正しい生活習慣や学校のきまりの大切さもよく理解できている児童が多く見られました。一方、給食時には、よく食べる児童と自分に合った量が食べられていない児童が見受けられました。そこで、調理実習等で栄養教諭と連携し、栄養についての理解を深め、自分に合った量を考えて感謝しながら食べることができるよう児童を育成したいと考えました。

栄養教諭との学習

調理実習当日だけではなく、単元を通して栄養教諭と連携した授業を1・2学期ともに1回ずつ行いました。専門的な知識を学ぼうとしたり、手順を資料から正しく理解したりするなど進んで学ぶ姿が見られました。



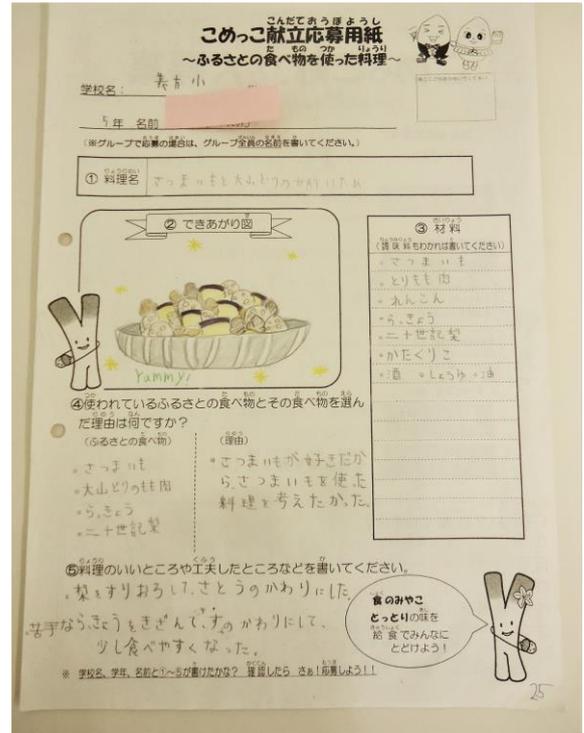
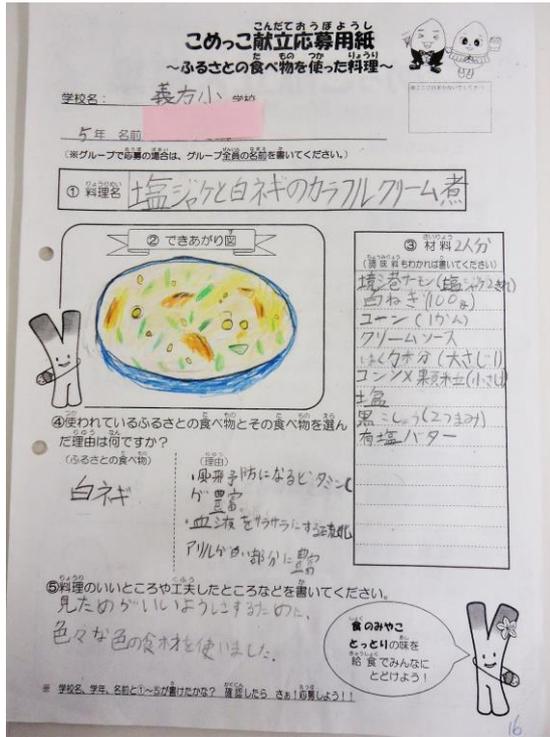
実習当日も、栄養教諭と担任の2人で指導にあたることができたため、安全に気を付けながら正しい手順で調理をすることができました。



「こめっこ献立～ふるさとの食べ物を使った料理～」に応募しました

家庭科での学びを生かす場として、米子市のこめっこ献立に応募しました。実際に給食の献立に採用される可能性があるため、たくさんの児童が意欲をもって取り組みました。また、夏休みの課題と兼ねたため、家族と相談をする児童や、農家の親戚にアドバイスをもらう児童も見られました。

ふるさとの食べ物を使った多くの素敵な献立案が集まり、それぞれが考えた献立を紹介し合いました。



給食に採用された児童はとても嬉しそうで、実際に給食として配膳された日には、学級全員で祝い、みんなで話題にあげながらおいしく食べることができました。



ふるさとの食べ物
たっぷりお好み焼き



うんまい！農家さんだんだん
野菜たっぷりラーメン

3学期になるにつれ、一人一人が自分に合った量の給食を少しずつ食べられるようになりました。それとともない残菜量も減少し、「今日も感謝して食べることができたね。」「お腹いっぱい午後頑張れるぞ。」などの前向きな声も増えました。

これからも、児童が、笑顔で給食に関わる人や食べ物に感謝をしながら、元気に生活できるよう、給食指導を充実させていきたいです。